

【別添2】

# 令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見工業高等学校

学校番号

45

## I 自己評価

1 学校教育目標	(1) 正しく、強く、明るくの校訓を体し、豊かな人間性と創造性に富む実践力のある人材を育成する。 (2) 自立力、共生力、自己表現力をバランス良く身に付けた生徒を育成する。					
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)		『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)		『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)	
	○社会的・職業的自立に向けて、必要となる基本的な専門的知識や技術とともに、態度を身に付けた生徒 ○生涯にわたって自ら学び、自ら考え行動し、主体的に社会とかかわりながら、産業の発展に貢献できる生徒 ○多様な人格を尊重し、他者との協働の中で、社会の一員としての自覚と責任を果たす生徒		○全ての教科において、職業人として必要な資質や能力の育成を目指した授業を実施 ○主体的に考え、判断し、行動できる力の基になる人間性をはぐくみ、コミュニケーション能力、自己表現力を高める教育活動の推進 ○地域との連携を深め課題発見力や課題解決力を育成するなど、実践的・体験的な学習を通じたキャリア教育の推進		○基本的生活習慣が身に付いており、向上心を持って、継続的に学習に取り組むことができる生徒 ○ものづくりに興味があり、将来は工業の分野で活躍したいという意欲のある生徒 ○部活動や生徒会活動、地域への活動に積極的に参加し、クラスメイトとも良好な人間関係を構築し、より良い学校生活を築いていこうという意欲のある生徒	
3 現状の分析	○専門教育や資格取得指導、進路指導を含め、ほとんどの生徒は本校に入学して良かったと思っている。 ○基本的なモラルやマナーを身に付けさせようとしている生徒指導に対して生徒は適切な指導であると評価している。 ○悩みや相談事に親切に対応している教員や専門的な授業について信頼できる先生が多いと生徒は評価している。 ▲授業や家庭学習への指導等、能力に応じた指導がやや弱い。また進路指導の体制が弱い。 ▲保護者や生徒が多様化し、各々に対する対応に苦慮している。 ▲校舎内や機械設備の老朽化進んでおり改善の必要性がある。 ▲外部からの期待は大きい、受検する中学生が少なく定員を満たさない。					
4 学校の抱える課題	・ICTを利用したわかる授業の展開 ・多様化する進路 ・生徒の多様性に応じた教育相談 ・施設設備の老朽化 ・学校広報の在り方					
5 今年度の具体的な重点目標	◇変化していく時代に即した工業人の育成や生徒の興味・関心を喚起する「わかる授業づくり」を推進する。 ◇生徒に軸足を置いた生徒指導を展開し、自己の在り方・生き方を考え、主体的に進路を選択できる能力や態度を育成する。 ◇地域に開かれた信頼される学校づくりを推進するとともに活力ある生徒の姿を発信する。					
年 度 目 標			年 度 末 (途中) 評 価			
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
教育課程 ・学習指導	①ICTを活かした授業改善	①学校評価アンケート	①公開授業、研究授業の実施	B	○各教科の観点別評価の方法を検証し改善点を見出せた。 ▲公開授業が形骸化している。	A
	②観点別評価の検証と改善	②実施アンケート	②職員研修及び教科内研究	A		
生徒指導 (教育相談)	①身だしなみ・交通安全指導	①各種統計資料	①身だしなみ指導と交通安全・遅刻ゼロ指導	B	○集合型集会を通じた全体指導ができた。 ○会議を通して指導方針を確立し組織で対応できた。	B C
	②生活実態・教育相談週間等の実施	②各種アンケート	②教育相談会議による情報共有と個の支援	A		
進路指導	①キャリア教育の充実	①生徒アンケート	①外部団体との連携	A	▲インターンシップの参加率が低かった。	D
	②企業・地域との連携	②インターンシップの参加率	②インターンシップや地元企業見学会の実施	B		
保護者・地域連携	①校内行事への参加の呼びかけ	①参加者アンケート	①多工祭、課題研究発表会の実施	B	○保護者と行事で連携ができた。	

## II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年1月19日

- ・課題研究の内容はレベルが高く先生方の手厚い支援が感じられる。
- ・学校PRについて本校卒業後どのような企業へ就職しているのではなく、どのような仕事をしているか具体的に示すとよい。
- ・入学志願者が定員を充たさなくても学校の質を保つように指導するべきである。
- ・多くの行事や体験や実践が自信になり生徒の成長に繋がっている。
- ・地元企業の現場を見て肌で感じ魅力を知る工夫をすともっとよい。
- ・高校三年間をしっかりと取り組んで忍耐力や根性を養い、継続的に会社を続けられるような力をつけるとよい。
- ・教育相談を中心に生徒に寄り添い、辛い気持ちを抱えながらも上手く生きることも必要であることを教える機会があるとよい。

## 13 来年度に向けての改善方策案

- ・観点別評価方法の検証と評価のPDCAサイクルの確立
- ・ICTの活用やわかる授業を展開するための授業改善の継続と充実
- ・中学生、中学生の保護者、企業等に多治見工業高校の魅力を理解させる広報活動
- ・家庭学習の定着や基本的、発展的な学力の向上と個別最適な学習指導の体制づくり
- ・多様化する生徒や保護者のための支援と教育相談の充実、さらに社会的自立に向けた教育
- ・進学希望者の系統的な支援体制の確立
- ・企業説明会や企業連携等、地元企業への就職増加につなげる方策
- ・保護者、地域との連携をさらに深めた学校理解
- ・老朽化した施設設備の更新と安全管理